

く荒井駅と陸軍造兵廠しょうじょう

いまの山陽電鉄の明石く姫路間は、大正十二（一九二三）年に、神戸姫路電気鉄道とい

会社側が荒井駅の設計変更を申請している書類に目がとまりました。

工・神戸製鋼・サントリーなどの工場が立ち並ぶ広大な敷地に、戦時中は、学徒動員による学生や女子挺身隊・徴用工員を含めて、八〇〇〇名もの人々が働いていました。

う会社が開業させた区間です。のちの昭和二（一九二七）年には、兵庫く明石間で営業していた別の私鉄会社と合併し、その翌年、兵庫く姫路間の直通運転を開始しています。

これは、荒井駅を従来の位置よりも二〇メートルほど東に移した上、ホームを拡張したり地下道を設けたりするなどして設備を増強するという内容で、翌年五月に鉄道大臣から認可されています。

この造兵廠については、当時から軍の機密事項であった上、その内部文書は終戦時にすべて焼却されてしまったと言われ、残念ながら不明な部分が多数あります。ただ、私鉄の駅の移築と増強を促すほどであったという事実から、造兵廠が高砂地域にとっては

請はいうまでもなく、車両の設計変更や駅の増改築といった細かなことがらに關しても、そのつど、鉄道省の認可を必要としていました。

興味がひかれたのは、その理由として、陸軍造兵廠播磨製造所が近く操業を開始するため、多数工員の来往する關係上、現在駅の設備を以てしては、円滑なる輸送困難と認められ、工廠当局よりも当駅拡張方を要請せられ居る」という点があげられていたからです。

造兵廠の実態や地域との関わりなどについては、今後の市史編さんの過程で解明すべき点が多く残されているように思われます。

この鉄道省の文書は、現在では国立公文書館や交通博物館に移管され、公開されていません。山陽電鉄関係のものも、四十点近い簿冊が残されており、調査に向いて、高砂市史の編さんに必要な箇所を複写してきました。

造兵廠とは、陸軍の火砲製造工場のことです。大阪にあった工場の生産力を増強するために、高砂の地に播磨製造所が新設され、昭和十六（一九四一）年五月に操業を開始しています。今では三菱重

（市史編さん専門委員

松下孝昭）

こうして収集した史料を見ているうち、たまたま、昭和十四（一九三九）年十一月に、

九四一）年五月に操業を開始しています。今では三菱重